



葡萄

さ お り

○ 「青葡萄奴——」

イツプのお狐さんが、くやしませに投げかけた一言、お狐さんはどんなに其の葡萄が恨めしかつたであらう。手の届かない葡萄は、さぞうまさうに熟してゐたであらう。まあいい玉の中に、おいしいお酒を満して、何十粒かくゝられた房が、幾房も幾房も下つてゐたであらう。葡萄の房をいはるやうに、もみぢした葉が棚にお屋根を作つてゐたであらう。其の葉間を漏れて、秋の陽がちらくと躍つてゐたであらう。

通りかゝつたお狐さん、

「よう、うまさうな葡萄だ。」

「すてきく、こんなあついに、甘い葡萄のしるで喉をうるほすなんて、めつぼう素敵だ。」

「一つ御馳走にならう。」

「ひの、ふの、みつ。」

飛上つたが届かない、も一度したがさはらない。三度目も駄目、四度目も失敗、躍り上り、跳上つて、汗だくのく息もきれく。駄目とさまつて、絶望のお狐さん、白い眼で葡萄をにらんで「すつば野郎！ 誰が食ふかい。」

○

私は葡萄が大好き、イツプの此の嘶も大好き

お狐さんも嫌ひぢやない。何だか私があつたのインツブのお狐さんの伯母さんであるやうな氣もする。

葡萄の樹の無い國に生れた私は、秋が來ても葡萄の甘いしるを吸ふことは殆ど稀であつた。繪で見たり、話に聞いたりして、葡萄の房をなつかしがり、葡萄の味を戀しがつてゐた。

「甲斐へ行けば、拾錢で葡萄畑へ這入れて、食べたいだけ食べられるさうだ。」

かう聞いた時から、私は甲斐へ行きたい、葡萄畑へ行きたい、食べて食べて腹一ぱい葡萄が食べて見たいと願つてゐた。インツブのお狐さんは葡萄畑へ行つただけでもしあはせ者だと思つてゐた。

「我は葡萄の樹、汝等は其の枝なり。」

ユダヤのエス様が弟子等におつしやつたと云ふ此のお言葉は、意味深長で私にはわからないが、御自分を葡萄の樹と言ひ、弟子を葡萄の枝といは

れるからには、ユダヤの國にはさぞ澤山葡萄があつたであらうと美しく感ぜられる。

さらば葡萄よ、

我が忘我の血液の内にて、

日の方へ尙高く昇らん、

遅々勞苦する葡萄樹に在らんよりも。

(松浦一氏譯)

西洋の詩人が、「酒場にて」の詩にうたつた、此のワインの本場はフランス、秋毎にフランスの野や山は、かぐはしい葡萄の房で飾られるであらう遠い異國は夢にも見られぬ。せめて内地の甲斐まで行きたい。

○

葡萄を戀慕ふこと三十年、此處に恵の秋がめぐつて來て、私は甲斐の國へ葡萄を食べに行く機會を得た。甲斐の勝沼葡萄の名所、其の名所の一番名高い葡萄作りの、一番廣い葡萄畑へ、私は秋晴

の一日、自由に這入つて、自由に採つて、自由に食べて宜しいといふ許を得た。

一泊二日の旅、葡萄を食べんがための汽車の旅である。國境を越えて甲斐に入ると、風が葡萄の香を運んで来るやうな氣がする。窓からは富士の嶺が仰がれる。柿の實が玉をつらねて赤く輝いてゐる。甲斐はよい國である。

日の色に柿みのる國富士の國

甲斐は葡萄のうま酒の國

勝沼で下車、案内の人に連れられて、彼の葡萄畑へと行く田圃路に、見よ、甲斐の葡萄の食べ殻が紫の色に匂つてゐるではないか。捨てられた葡萄の皮さへ此のやうに美しい。路の右も左も葡萄畑である。時雨に染つた葉が棚を覆つてゐるのが又美しい。

半時ばかりの後、私は數町歩にわたる葡萄棚の下に立つてゐた。數千萬房の熟しに熟した房が、

大空を遮つて、手の届く所に透間も無く下つてゐる。傍の臺の上には、今切取られた數十房が積まれてある。

「さ、召上つて。」

「御隨意にお採りになつて。」

あゝあとばかり驚異の眼を見張ると、私の喉は塞つてしまつた。聲も出ない。手も出ない。

「さあ、召上つて下さい。」

「お持歸りは願はれませんが、召上る分なら何百房でも。」

私は夢の國の人のやうであつた。私は何も彼も忘れてしまつた。唯々葡萄の美しさに酔ふばかりであつた。

紫の甲斐の葡萄はまろらかに

うす化粧して美しきかな

百千玉甲斐の葡萄はうま酒を

中に秘めたる寶玉にして

私は半日此の葡萄棚の下で酔つてゐた。さめた時には夕日うすづく甲斐の田圃路を、とぼくと歩いてゐた。私の三十年のあこがれ、一生の望は達せられたのか、達せられなかつたのか、私は其の路で、インツプのお狐さんに會つて話したかつた。

翌日歸りの汽車の窓から、再び富士を仰いだ。網棚には土産の柿と、「一粒も召上りませんから、特別に差上げませう。」と言つて切つて呉れた、あの葡萄畑さつての長い三房とが乗せられてゐた。

お詫び

十月號は規定よりもずつと後れて二十日に發送致しましたので、お案じ下さつた事と思ひます。丁度十月號から印刷所を變更いたしましたため、手違ひを生じ申しわけ無くも大變におくらせてしまひました。相濟まなかつた次第でございます。(編輯係)

珠數玉の根まで晴れけり村安し

禪 寺 洞

秋の雲松を見上げて歩さけり

零 餘 子